

教材提示カメラとパワーポイントによる授業改善

附属教育実践総合センター・太田佳光

1、これまでの授業の評価と課題

本授業は、平成5年に授業者が本学部着任以来、毎年開講している教職に関する選択科目である。3年生の後期に開講されるため、教育実習を終えたばかりの学生の意欲・関心は高い。本年度は、62名の学生が受講した。

これまでの授業評価による主な評価点は、以下のようによまとめることが出来る。

第一に、授業内容について。

本授業は、学生がさまざまな問題を主体的にとらえ、その対応策を、教師になった自分自身の問題として考えることをねらいとしている。そのため、非行やいじめなどの現代のわが国の教育問題を取り上げ、その対応について具体的に考察することとしている。また、ビデオ映像や実践資料を使用し、実際の問題場面を提示し、それについての具体的対応の考察を大切にしたい。

授業概要を、以下に示す。

- ① 教育問題の現状と課題
- ② 授業妨害と逸脱（1）中学生日記を事例として
- ③ 授業妨害と逸脱（2）逸脱論とボンド理論
- ④ 逸脱行動と立ち直り（1）実践事例からの考察
- ⑤ 逸脱行動と立ち直り（2）：ラベリング論と生徒指導
- ⑥ 逸脱行動の現状と課題：教師の役割とは
- ⑦ 第1回から第6回までの補足説明と討論
- ⑧ いじめ問題と教師（1）ある事例の検討から
- ⑨ いじめ問題と教師（2）カウンセリングマインドと教師
- ⑩ いじめ問題と学級集団（1）いじめの類型化と生起のメカニズム
- ⑪ いじめ問題と学級集団（2）集団論といじめ
- ⑫ 教育問題と学級づくり（1）いじめを起ささない学級づくりとは
- ⑬ 教育問題と学級づくり（2）集団を意識した学級づくり
- ⑭ 教育問題と学級づくり（3）：人間関係を意識した学級づくり
- ⑮ 補足説明と総括的討論

こうした授業内容について、関心・意欲の高まり

など、従来から高い評価を得ている。

第二に、授業の双方向性について。

双方向的授業を実践するために、数年前から「大福帳」というA4版の出席カードを使用している。

「大福帳」には、15回分のコメント記入欄が設けられ、毎回授業終了後に、授業への感想や質問などを学生が記入し、次回授業時に学生に返却するものである。この出席カードの使用により、授業時に学生がどのようなことを考えているかを知ることができ、次回の授業にその内容を生かすことが可能となる。また、学生の質問などに個別に対応できるため、より細やかな指導が可能となる。この出席カードの使用に対する評価も、高い。

第三に、小集団による討議と発表について。

先に述べたように、本授業ではビデオ映像や実践資料を使用し、実際の問題場面を提示し、それについての具体的対応の考察を行う。その考察をより深めるために、昨年より小集団による討議と発表を取り入れた。この新しい取り組みに対しても、昨年は高い評価を得た。

2、本年度の授業の工夫

おおむね良好な評価を得ている授業について、ただ、これまで指摘されてきた問題点もある。さらに、より良い授業展開への工夫も必要である。そこで、本年度は、以下の問題点への対応と、これまでの授業の継続を考えて、表題に示したように、新しい取り組みを行った。

問題点の一つは、板書の問題である。これまで、黒板を用いた板書を行ってきたが、どうしても系統的な内容になりづらいきらいがあった。配布資料の充実など、これまでも改善を行ってきたが、学生による授業評価などでは、さらなる改善の必要性が指摘されてきた。

そこで、パワーポイントを用いた授業に変換し、その問題を解消しようと考えた。

次に、小集団での話し合いを全体に帰す際、これまで、受講生数の都合から、口頭による発表となり、その深まりに問題が残った。そこで、本年度は、エルモの教材提示装置を使い、小グルー

ブの発表を行うこととした。また、教材提示装置があることによって、時間が許せば、各グループで話し合った内容を、その時間の内に、全体で共有し、話し合いを深めることが出来ると考えた。

3、学生による授業評価の概要

授業終了時に、学生に対して無記名のアンケート調査を実施した。なお、実施の際には、次年度の授業改善に用いることと、成績評価には関係しないことを確認した。また、提出場所は、教員の目が届かない、教室前方隅の机を指示し、学生の本音の評価を得られるよう配慮した。そして、当日出席の学生40名からの回答を得た。

アンケートの概要については、以下に調査結果として示すが、共通教育の授業評価アンケートの項目のうち、授業内容・方法に関する質問項目を援用した。

以下に、項目ごとの単純集計(%)と筆者のコメント(主に問題点)を示す。

1) 授業の難易度：この授業のレベルについて、どのように感じましたか。

- ①難しすぎた 0%、②やや難しかった 7.5%、
- ③ちょうどよい 85%、④やや簡単だった 7.5%、
- ⑤簡単すぎる 0%

この結果、授業の難易度は、おおむね適切であったことが分かった。

2) 授業の進度：この授業の進度について、どのように感じましたか。

- ①早すぎた 0%、②やや早かった 2.5%、
- ③ちょうど良い 85%、④やや遅かった 12.5%、
- ⑤遅すぎる 0%

授業の進度についても、おおむね適切であったことが指摘できる。ただ、自由記述に「一つのテーマに数週間使うため、前回の内容を忘れることもある」と言った意見もあり、もう少し進度を上げる可能性も残されていることが分かった。

3) 教員の話し方：教員の説明の仕方は、わかりやすかった。

- ①強くそう思う 15%、②まあそう思う 70%、
- ③あまりそう思わない 15%、④まったくそう思わない 0%

説明の仕方については、やや課題が残るようである。例えば自由記述にも「声が聞き取りづらいことがあった。」「話し方がゆっくりで分かりやすい。でも、もう少し声をはってほしい。」という指摘があった。説明の内容よりも、声の大きさや、「はり」やトーンなど、技術的な問題が残っていると見える。

4) 教材の使い方：教員の教材の使い方は、効

果的だった。(教材とは、視聴覚教材、実物教材、教科書、配布資料を指します。)

- ①強くそう思う 32.5%、②まあそう思う 60%、
- ③あまりそう思わない 7.5%、④まったくそう思わない 0%

今回の授業でもっとも改善を図った項目の一つである。その結果、肯定的意見が92.5%と高い評価をえているといえるが、配布資料などに対する課題も示された。

5) 双方向性：授業内容への質問・発言の機会が適切に与えられ、教員をそれにきちんと対応していた。

- ①強くそう思う 22.5%、②まあそう思う 70%、
- ③あまりそう思わない 7.5%、④まったくそう思わない 0%

本授業でもっとも重要視している項目である。おおむね肯定的評価と考えられるが(92.5%)、さらに学生が満足するような双方向性を企図したい。

6) 改善への意欲：教員は学生から意見を聞くなどして、授業を改善するよう努力していた。

- ①強くそう思う 17.5%、②まあそう思う 60%、
- ③あまりそう思わない 22.5%、④まったくそう思わない 0%

本項目もおおむね良好な評価を得ているが、否定的意見が22.5%あり、授業を進めながらの改善の必要性が指摘されたと考える。

7) 授業への満足度：この授業は全体的に満足のものだった。

- ①強くそう思う 25%、②まあそう思う 72.5%、
- ③あまりそう思わない 2.5%、④まったくそう思わない 0%

肯定的評価が、97.5%と有難い評価を得た。しかし、強くそう思うという結果をさらに得られるよう、頑張っていきたい。

なお、今回の改善に対する代表的なコメントを授業の良い点の自由記述から紹介しておきたい。

「パワーポイント、VTRなどの教材が充実していた。」「教材が興味深いものであり、グループの意見を発表する機会が与えられていた。」「グループで話し合う機会も多く、色んな意見を聞くことが出来良かった。また、グループで意見をまとめたり、考えを深めることが出来た。」「学生に考えさせる授業で良かった。」

以上のように、おおむね本授業に対する学生の評価は高いことが分かったが、今後改善すべき点も多くあると考えている。次年度に向けて、さらに改善を図っていきたい。